

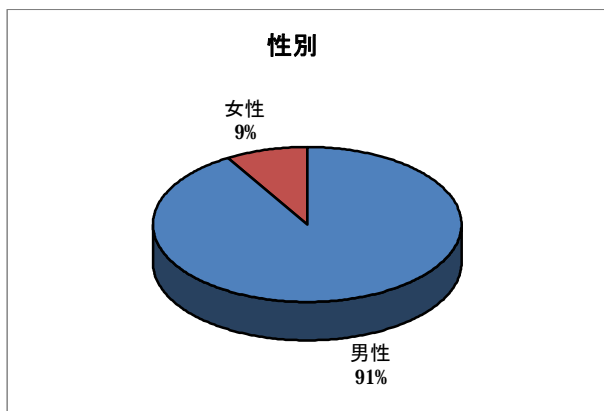
「むらやまの農業 新春フォーラム2010」アンケート集計結果

平成22年1月14日、天童市内のホテルで開催した「むらやまの農業 新春フォーラム2010」の参加者のうち87名の方から回答をいただきました。

1. 回答者

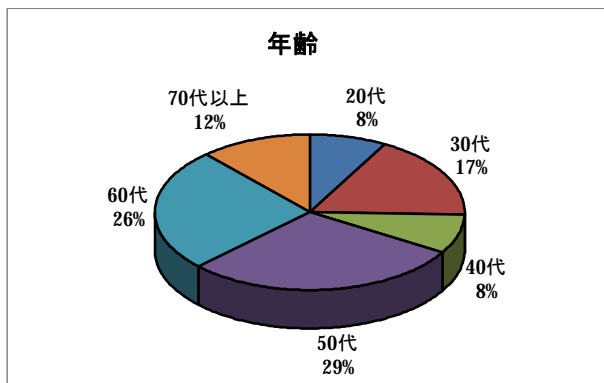
(1) 性別

① 男性	75名	(91%)
② 女性	7名	(9%)
計	82名	(100%)
(無記入5名)		



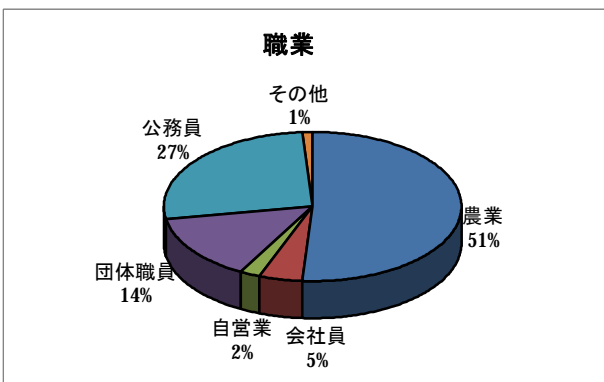
(2) 年齢

① 20代	7名	(8%)
② 30代	15名	(17%)
③ 40代	7名	(8%)
④ 50代	25名	(29%)
⑤ 60代	22名	(26%)
⑥ 70代以上	10名	(12%)
計	86名	(100%)
(無記入1名)		



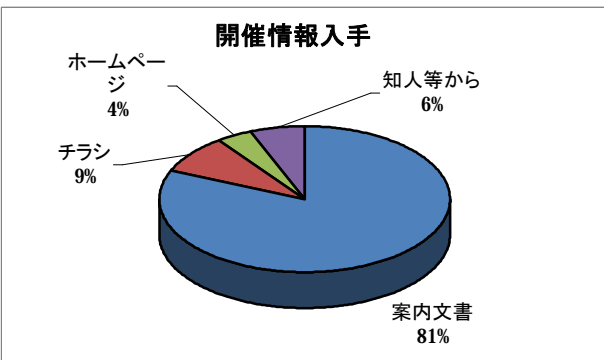
(3) 職業

① 農業	44名	(51%)
② 会社員	4名	(5%)
③ 自営業	2名	(2%)
④ 団体職員	12名	(14%)
⑤ 公務員	23名	(27%)
⑥ その他	1名	(1%)
計	86名	(100%)
(無記入1名)		



2. フォーラムの開催を何で知りましたか。

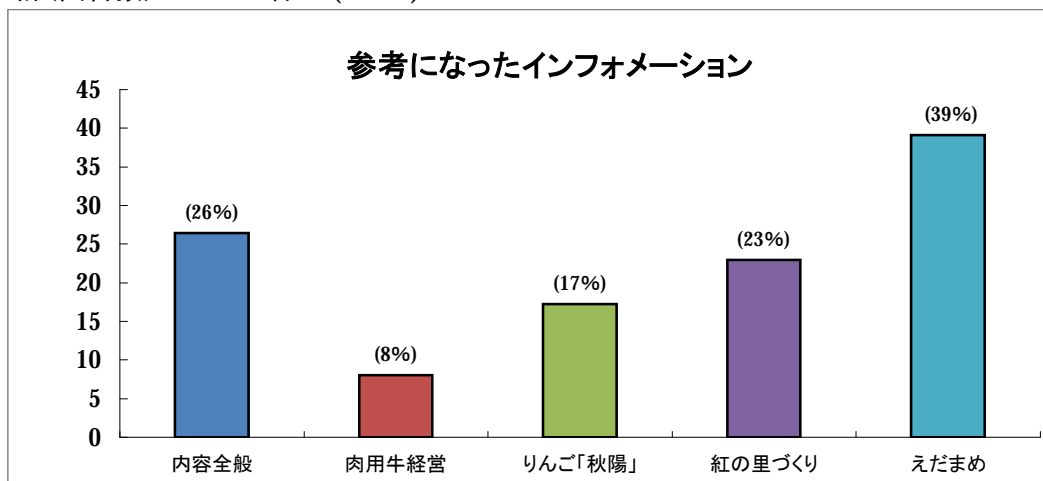
① 案内文書	66名	(81%)
② チラシ	7名	(9%)
③ ホームページ	3名	(4%)
④ 知人等から	5名	(6%)
⑤ その他	0名	(0%)
計	81名	(100%)



3. 普及と研究からのインフォメーションについて

(1) 自身の農業経営や業務に参考になると感じたインフォメーション(複数回答)

① 内容全般	23名	(26%)
② 肉用牛経営	7名	(8%)
③ りんご「秋陽」	15名	(17%)
④ 紅の里づくり	20名	(23%)
⑤ えだまめ	34名	(39%)
計(回答数)	87名	(100%)



(2) 参考になった点

- ① 各地区、地域の取り組み
 - ◇それぞれの地域での取り組みの内容のわかりやすい説明。
 - ◇減反田の活用、品種の構成。
 - ◇地域の産業振興
 - ◇各地区、関係機関の取り組みの様子。
 - ◇普及現場の取り組みが大いに理解できた。
 - ◇各地区のブランド化。
- ② 各産物について
 - ◇中生りんご「秋陽」の現状、枝豆将来性。
 - ◇紅花の機械収穫、障害者の収穫連携。
 - ◇雪畜。えだまめ、子実の二種の商品形態をする事。
 - ◇紅花栽培を通じた障害者への就業支援。
 - ◇秋陽の着色管理が樹外と樹内部との着色の差がわかった。
 - ◇WCS、ワサレージの利用。中生系りんごの戦略。雪音の大豆と加工。
 - ◇えだまめ、秋陽の栽培技術。
 - ◇秋陽ジュースのおいしさ。
 - ◇紅花の手間のかかるところ。大量生産の難しさ。
 - ◇雪音の将来性。
 - ◇河北町豆栽培の熱意。
 - ◇収穫。
 - ◇栽培方法全般。
 - ◇作り方。
- ③ 品種構成、労力対策、生産、経営について
 - ◇品種構成、作業体系。
 - ◇品種構成、生育を見る能力、労力。
 - ◇労力対策による栽培。
 - ◇労力の点。
 - ◇受託生産と労力分散システム。
 - ◇紅の里づくり拡大には生産性として合うのかだという点。
 - ◇栽培面積の集積について
 - ◇産地作り。
 - ◇販売収入を目的とした場合における、えだまめ労力対策として提案された部分について考え方として参考になった。
 - ◇若手生産者が組織を組み大規模牛舎を低コストで整備している事等。
 - ◇集落農業に対しての取り組みをどうしたらよいか問題点が出たので良かった。
 - ◇どの部門でも経営的には大したことがないという点。
 - ◇障害者雇用の部分。

- ④ 総合的な点、情報、観光利用
 - ◇生産物を捨てる勇氣。
 - ◇最近の情報がつまっていた点。
 - ◇全体的に良かった。
 - ◇総て。
 - ◇観光的利用。

(3) もっと詳しく聞きたかったこと

- ① 各作物の生産量、栽培特性、問題等について
 - ◇枝豆の生産量、収量向上について対策、技術、「秋陽」栽培特性。
 - ◇紅花の生育モデル。豆の味比較。
 - ◇紅花の今後の栽培の考え方。
 - ◇河北枝豆作業受託組合について。
 - ◇「秋陽」の高接木の問題。中間台木で品質にバラつきが出て流通業者としては扱いづらい。「さび」も出ないという説明が導入前に県から説明あったが「さび」もかなり出てい。改植というより高接木が一般的なのだからこの中間台木の相性も研究してほしい。
 - ◇紅花は食品によく使われるようになったとのこと。栄養価の特徴、家庭でできる料理法。
 - ◇紅花の情報が少ないのでDVDを含めて多くの情報を知りたい。
 - ◇紅花振興。
 - ◇紅花の観光利用のための具体的対策。
 - ◇時間的には十分なので他の作物もやっていただきたい。
- ② 具体的な販売方法について
 - ◇低コスト牛舎とは具体的にどの様にコストダウンをしているか等。
 - ◇どれも品種の選定などの話だったが、どのようにして売っていくのか(方法)の具体的な
 - ◇各発表者ともに生産については詳しく説明されていたが、販売についてはあまり話がなかった。生産と同じくらい説明があっていいと思う。
 - ◇具体的な本当の収益。

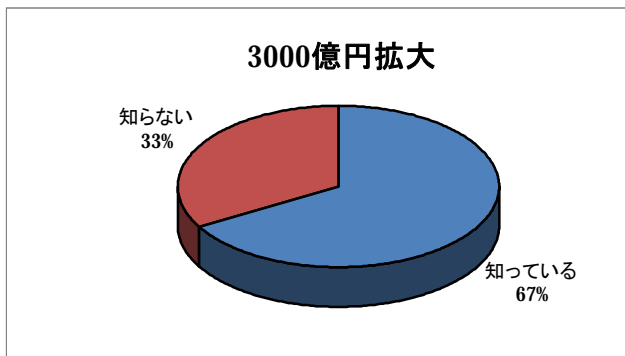
4. パネルディスカッションで参考になったこと

- ① 農産物に関する販売取組み事例。
 - ◇井澤さんの話は大変率直で教えられることが多かった。
 - ◇井澤さんのお話は農産物の販売においてリアルで参考になった。新品種を導入する時は自分が良いと思うものというだけではなく、お客様がお金をどのくらい出せるかを第一に考えることが大切という点。
 - ◇生産者の意識が大事だと思った。消費者のことを本当に考えているのか。品種を育てるのもつづすのも生産者であること。井澤さんはりんごだけでなく農産物アドバイザーになってほしい。
 - ◇井澤さんの農産物販売取組み事例。
 - ◇総て。
 - ◇りんごの海外輸出。
- ② 各地区の取り組み、売るための勉強が必要であること。
 - ◇各地区の取り組み状況。
 - ◇売れるものを売るためには農家、地域全体が勉強していかなければと感じた。
- ③ 紅花、大豆栽培について現在の状況と対策
 - ◇観光も含めた栽培など話題が歴史的に繰り返している。一步も前に進んでいない。外国産と比較せず生産、観光用栽培にしる行政が金をかけていないと栽培ならないのが紅花である。
 - ◇紅花。
 - ◇大豆栽培。
 - ◇農家として現実を聞くことが出来て良かった。特に紅花、枝豆生産者ご苦労様でした。
 - ◇存知あげない事が聞けた事。
 - ◇消費者の目線で作物を作る事が最も大事な事。
 - ◇リーダーの方は哲学をお持ちである事。

5. 山形県の農林水産業の政策について

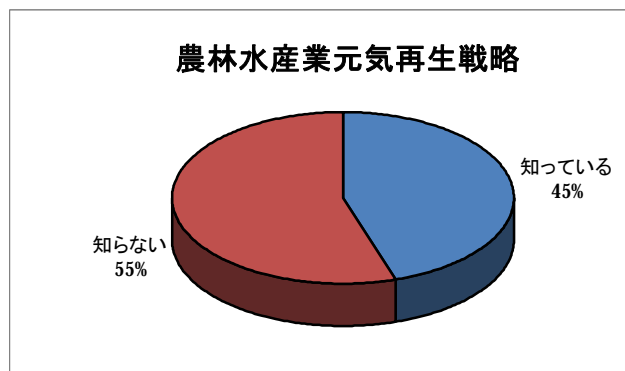
(1)「農林水産業を起点とする産出額を3000億円に拡大」を知っていますか。

知っている	56名	(67%)
知らない	28名	(33%)
計	84名	(100%)



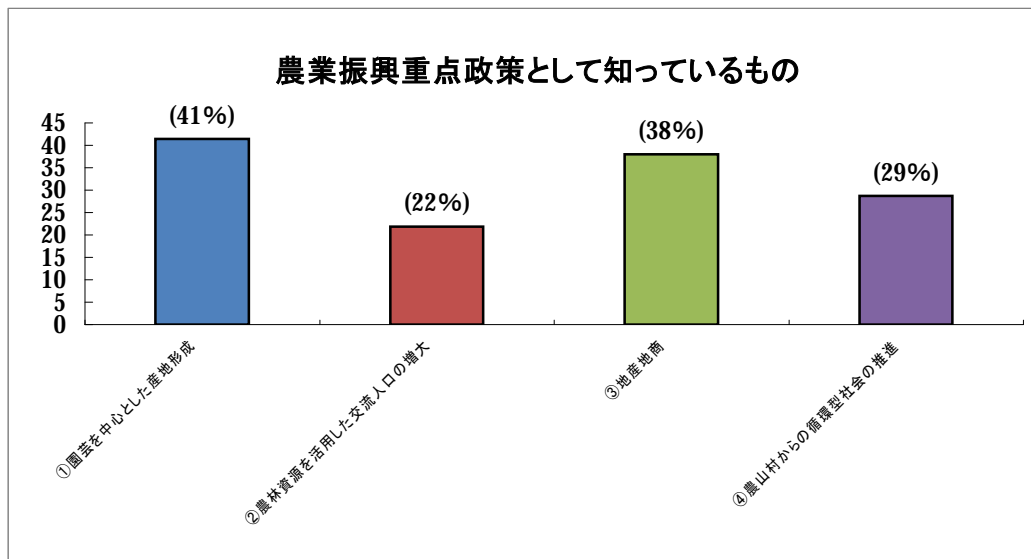
(2)産出額拡大のための農林水産業元気再生戦略を知っていますか。

知っている	37名	(45%)
知らない	45名	(55%)
計	82名	(100%)



(3)村山地域の農業振興重点政策として知っているもの(複数回答)

①園芸を中心とした産地形成	36名	(41%)
②農林資源を活用した交流人口の増大	19名	(22%)
③地産地商	33名	(38%)
④農山村からの循環型社会の推進	25名	(29%)
計(回答数)	87名	(100%)



6. 現在の農業関係について関心のあること(複数回答)

①農業担い手育成	32名	(37%)
②市場流通・販路拡大	36名	(41%)
③他産業との連携	22名	(25%)
④戸別所得補償制度	32名	(37%)
⑤集落営農	14名	(16%)
⑥その他	0名	(0%)
計(回答数)	87名	(100%)

